



令和 8 年 8 月 25 日
(午前)・午後 11 時 56 分 受領
No. 1

議長	事務局長	係	令和 8 年 8 月 25 日
			
愛南町議会議長 吉田 茂生 殿			愛南町議会議員 嘉喜山 茂
一 般 質 問 通 告 書			
次のとおり通告します。			
質 問 の 要 旨			答弁を求める者
D X の推進について 2026 年 4 月、愛南町は D X 推進室を設置し、行政のデジタル化を加速させる組織体制を整えました。 D X 推進室の取り組みが緒に就いたばかりの段階であることは理解しておりますが、設置から間もなく半年が経過しようとするこのタイミングで、ぜひとも次のステップへと踏み出していただきたいと思います。 住民の暮らしと産業の現場に真に役立つ D X を、検討段階から実装段階へと丁寧につないでいくことが何より大切であると考えております。 とりわけ本町においては、人口減少や高齢化の進行に伴い、住民の移動手段の確保が喫緊の課題となっております。 本町の基幹産業である農業・林業・水産業においても、担い手の高齢化や後継者不足、漁獲量の変動、鳥獣害など多くの課題に直面しており、持続可能性を高める D X の活用が急務であると感じております。 D X の推進にあたっては、他自治体の事例をそのまま模倣するのではなく、本町の地理的条件、産業構造、住民の暮らしに根ざした実効性のある取り組みが必要不可欠であると思っております。 これらの点を踏まえ、次の 5 点について伺います。			町長

① D X推進室の進捗と所期の役割

設置から半年近くが経過しようとしておりますが、D X推進室が具体的にどの業務にどこまで取り組んでおられるのか。

また、交通分野に限らず所期の役割と比較して進捗をどう評価しているか。

② 住民の移動手段確保に向けたD X活用

6月議会では「多角的な視点から研究を進める」との答弁でしたが、住民の切実な声に応えるためにも、検討段階から実装段階へと移行されていく判断の目安、時期、あいなんバスの利用実態の分析の取りまとめのめどは。

③ 第一次産業へのD X活用

スマート農業技術、ドローンによる防除・観測、I C Tを活用した漁場環境の見える化など、第一次産業の持続可能性を高めるD X活用について、これまでの検討状況と今後の方針は。

④ 現場ニーズの引き上げとD X推進における横連携体制

第一次産業分野における産業横断・部署横断の連携について、どう考えているのか。

また、こうした横連携の仕組みを構築される場合、現場の声をD X推進室の施策立案にどのように反映させていく考えか、現状の連携体制と今後の方針は。

⑤ 実装段階への移行とロードマップ

他自治体の模倣ではなく、本町の実情に合ったD Xを推進していく上で、今後1年間及び中長期的な実装ロードマップをどのように描いていかれるのか。

また、D X推進室を単なる組織改編で終わらせることなく、住民・産業の現場で実際に役立つ施策として実装していくための考えは。